

# Friedrich-Schiller-Universität Jena

# イエーナ・フリードリヒ・シラー大学

所在地  
Fürstengraben 1, 07742 Jena, Germany  
ホームページ: <http://www.uni-jena.de/>

主な対象学部  
外国語学部・語学留学(独・英)

## 沿革

「緑の中の町」と呼ばれる大学都市イエーナは、光学機械・ガラス・薬品を中心とした工業の盛んなことでも知られる。イエーナ大学の名称は詩人・劇作家として有名なシラーが同大学で歴史学を教えたことに由来する。また、フィヒテ、シェリング、ヘーゲルなどの哲学者も教鞭をとり、ゲーテが総長だった由緒ある総合大学である。創立は1558年。学生数は約20,000名。

## 特色

- ドイツ語専攻：麗澤大学の委託授業で、クラスは麗大生のみ。英独プログラムの科目も英語力次第で受講できる。
- 英独プログラム：麗澤大学の委託授業で、クラスは麗大生のみ。英語とドイツ語を週に各6コマ学ぶ。成績によってはクロス留学用の科目も受講できる。
- 希望者は、春休みや夏学期に語学センターの講座で他国の留学生とともに学ぶこともできる。
- ドイツ人学生と1対1で勉強するタンデムや、ドレスデン、ベルリンなどへの研修旅行がある。
- 日本の文化を紹介するイベントに参加したり、インターンシップの機会も設けられている。
- 留学開始までにドイツの生活環境に慣れるため、9月にドイツ各地で行われる語学研修に参加することを推奨する。

## 宿泊

学生寮。

## 生活

イエーナには、これまでに麗澤大学に留学経験のあるドイツ人学生が多く、生活面での助言をしてくれる。タンデムやシュタムティッシュ（週に一回食事に集まる）、イエーナ市の各種スポーツ・クラブや音楽サークルで、現地の学生や社会人と交流する機会が多い。

## 条件

- ドイツ語専攻：「Start Deutsch1」に合格、またはそれと同等の能力があると認められる場合（独検の合否、授業成績などから総合的に判断する）。留学前に「ドイツ語基礎演習ⅢまたはⅣ」を修了。
- 英独プログラム：留学前に「ドイツ語ⅢまたはⅣ」を修了していること。TOEFL/TOEIC450点以上、夏学期から参加する場合はTOEIC500点以上が望ましい。

## 留学時期

原則として2年次第2学期から半年または1年間、3年次第1学期から半年間。



シラーが歴史学を講義した講堂



UHG(大学中央棟)の塔



学生寮



構内



## 半年間留学と新たに学んだ事について

外国語学部英語・英米文化専攻 2016年留学 有川 佳歩

イエーナ大学に留学する麗澤生の多くはドイツ語専攻で1年留学です。私は3年生の前期から、既に半年イエーナで勉強している麗澤生に混ざって英独プログラムの授業を受けました。途中から授業に加わるので、先生方もそれを考慮し親切に教えてはくれます。しかし、明らかに1年留学組の学生に比べるとドイツ語のレベルや授業に追いつくための努力、1年留学にしておけばよかったという後悔など、沢山の悩みや焦りが出てきます。イエーナ大学の1学期の授業期間は実質3カ月です。7月の初めに授業は終わり、早い人はその後すぐに帰国する事になるので、半年留学と言っても、ドイツの大学で授業を受ける事ができる時間はとても短いです。私は半年留学でも少しでも長く沢山のドイツ語を学ぶ機会を作りたいかったので、

授業以外でドイツ語に触れる機会を作るようにしました。まず、夏学期参加前に春期研修プログラムを受け、大学と授業、生活の雰囲気を知りました。春期研修ではホームステイもできるのでドイツの文化を知る事もできました。そして学生合唱部に参加しました。英独プログラムの授業は麗澤生だけの授業なので、日本語を話してしまいがちになります。ドイツ語しか話せず、留学生だからといって配慮してくれないコミュニティに入る事はとても勇気がいる事でした。実際、最初は皆の言っている事が理解できず、コミュニケーションを上手く取ることも難しかったので孤独も感じました。しかしとにかくドイツ語を理解しなければいけないという環境だったので、ただ授業だけ受けているよりリスニング力はとても身に付いたと感じています。歌う曲もドイツ語なので最初は大変でしたが、言葉の意味や発音について聞くと皆親切に教えてくれたので発音に関しても勉強になりました。学期末はとても忙しかったため、残念ながら途中から活動に参加できなくなってしまった

のですが、日本人が少ない環境でドイツ語を使う環境にいたことはとてもいい経験になりました。一方、英語に関しては、思ったように自分のレベルを伸ばす事ができなかった事を悔しく思っています。二言語をバランスよく学ぶ点で、留学期間に悩んでいる人には1年留学をお勧めします。半年留学を考えている人には、半年でも自分の行動や勉強次第で幾らでも自分の言語レベルや経験を積む事は可能だと言いたいです。

春期研修プログラムと夏学期の授業、プラクティクムの期間を全て合わせてちょうど6カ月。毎日授業の復習や課題で忙しい毎日でしたが、それだけではなく、自分の興味がある事に関してより知識を深めることもできました。私は、ヨーロッパの建築やドイツのそれぞれの街の歴史にとても興味がありました。ドイツのそれぞれの街には、その街の歴史に関する博物館が必ずあります。その街を訪れた時に建物の造りや歴史について詳しく知る事ができたのは、私にとってとても良い機会でした。

最後に、夏学期の授業が終わった後の事について書きたいと思います。7月の2週間イエーナの幼稚園(Kita Kindervilla)でプラクティクムをしてきました。ドイツの幼稚園で職業体験をする機会を頂けて、とても嬉しく思っています。実際に働いてみて、自分のドイツ語力がまだまだ足りないこと、子供とどう接するべきか、幼稚園という会社の世界など、色々な事を考えさせられながら働く事ができました。特に考えさせられたことは、ドイツの幼稚園と日本の幼稚園のシステムや考え方の違い、子供と接するという事、そして幼稚園に対しての国の援助についてでした。私は将来、教育に関する職業に就きたいとは考えていないのですが、いつか自分が親として子供と幼稚園に関わる時、この経験はとても役に立つと思います。本当にドイツ語を使うこと以外の面でも貴重な経験でした。